

イノベーションに情熱を。
ひとに思いやりを。



第一三共の現況と成長戦略

第一三共株式会社

代表取締役社長 兼 CEO

眞鍋 淳

2020年2月8日 (土)

将来の見通しに関する注意事項

本書において当社が開示する経営戦略・計画、業績予想、将来の予測や方針に関する情報、研究開発に関する情報等につきましては、全て将来を見込んだ見解です。これらの情報は、開示時点で当社が入手している情報に基づく一定の前提・仮定及び将来の予測等を基礎に当社が判断したものであり、これらには様々なリスク及び不確実性が内在しております。従いまして、実際の当社の業績は、当社の見解や開示内容から大きくかい離する可能性があることをご留意願います。また、本書において当初設定した目標は、全て実現することを保証しているものではありません。なお、実際の結果等にかかわらず、当社は本書の日付以降において、本書に記述された内容を随時更新する義務を負うものではなく、かかる方針も有していません。

本書において当社が開示する開発中の化合物は治験薬であり、開発中の適応症治療薬としてFDA等の規制当局によって承認されてはおりません。これらの化合物は、対象地域においてまだ有効性と安全性が確立されておらず、開発中の適応症で市販されることを保証するものではありません。

当社は、本書に記載された内容について合理的な注意を払うよう努めておりますが、記載された情報の内容の正確性、適切性、網羅性、実現可能性等について、当社は何ら保証するものではありません。また、本書に記載されている当社グループ以外の企業・団体その他に係る情報は、公開情報等を用いて作成ないし記載したものであり、かかる情報の正確性、適切性、網羅性、実現可能性等について当社は独自の検証を行っておらず、また、これを何ら保証するものではありません。

本書に記載の情報は、今後予告なく変更されることがあります。従いまして、本書又は本書に記載の情報の利用については、他の方法により入手した情報とも照合し、利用者の判断においてご利用ください。

本書は、米国又は日本国内外を問わず、いかなる証券についての取得申込みの勧誘又は販売の申込みではありません。

本書は投資家判断の参考となる情報の公開のみを目的としており、投資に関する最終決定はご自身の責任においてご判断ください。

当社は、本書に記載された情報の誤り等によって生じた損害について一切責任を負うものではありません。

1. 第一三共の現況

2. 第一三共の成長戦略

3. 株主還元方針



サイエンス & テクノロジー

創薬型企業として長年引き継がれてきた強力な

- 研究開発のDNA
- 先進的医薬品を創出する
- 高い自社創薬技術

グローバル組織 & 人材

- 世界の英知を結集した
- グローバル経営体制
- 豊富な
- グローバルタレント

日本でのプレゼンス

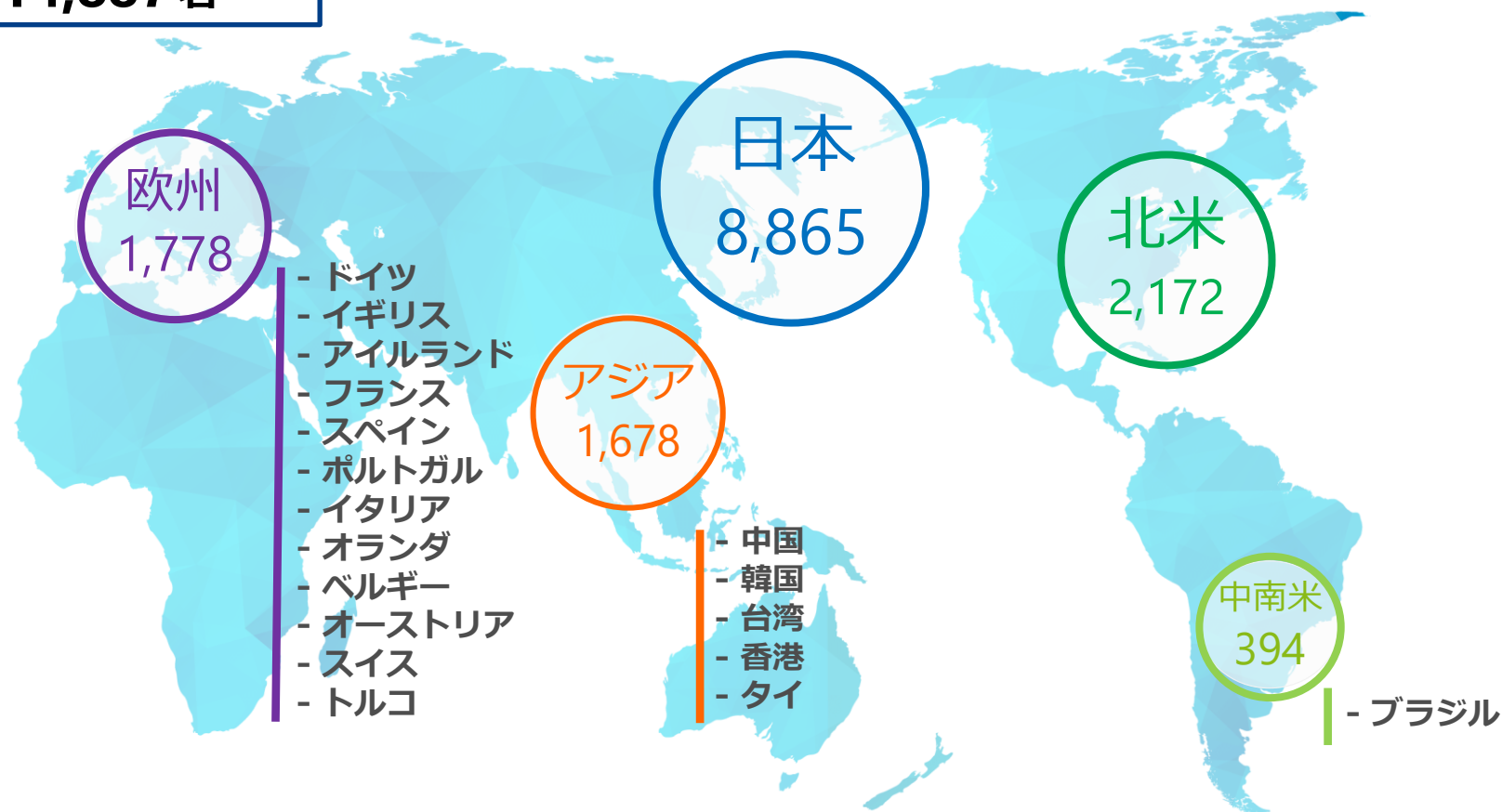
- 医療用医薬品売上収益
3年連続 1位
- MR評価 7年連続 1位
- 多様な医療ニーズに対応する
- 4事業展開
(新薬、OTC、ワクチン、ジェネリック)



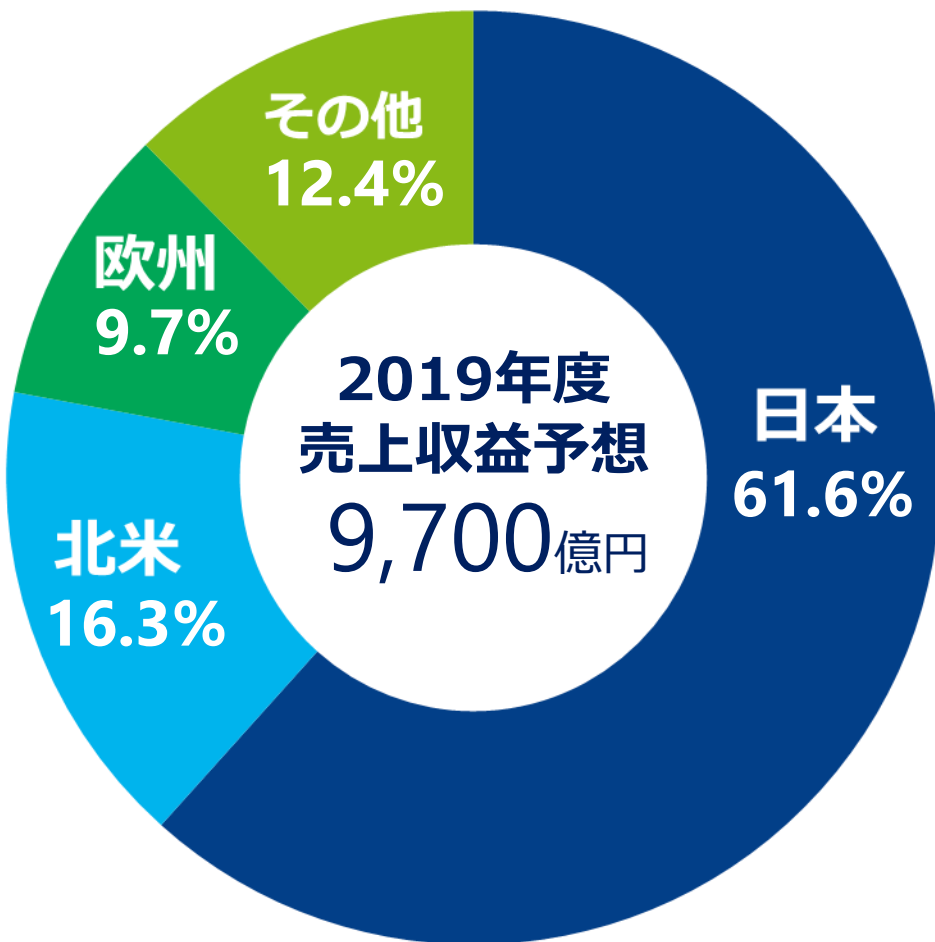
従業員と拠点（2019年3月末）

グループ従業員数

14,887名



2019年度の連結業績予想（1月公表）



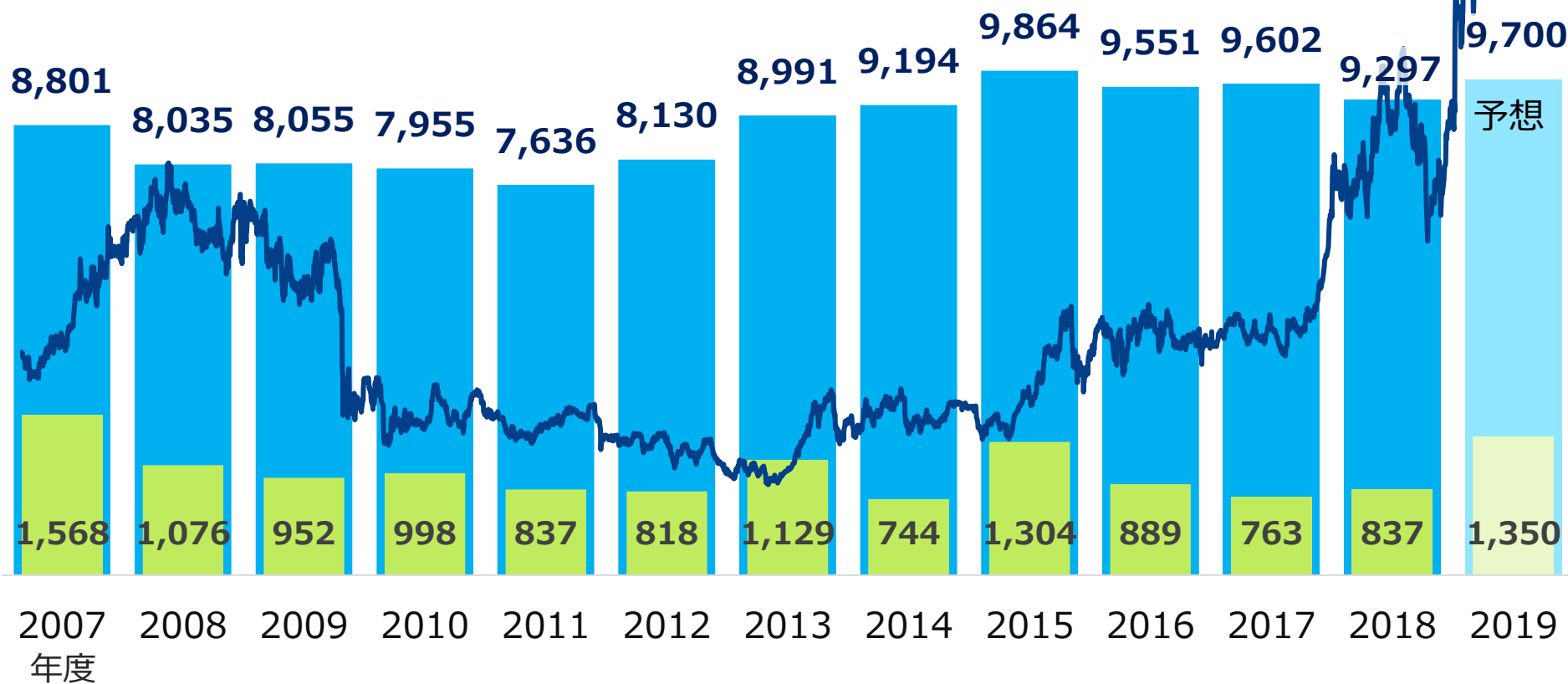
売上収益	9,700億円	100%
売上原価	3,350億円	34.5%
販売費・一般管理費	2,900億円	29.9%
研究開発費	2,100億円	21.6%
営業利益	1,350億円	13.9%
税引前利益	1,350億円	13.9%
当期利益 (親会社帰属)	1,100億円	11.3%

第4四半期の為替前提
USD/円：110、EUR/円：130

業績と株価の推移

- 第一三共株価
- 売上収益（単位：億円）
- 営業利益（単位：億円）

2020年1月24日時点
株価終値
7,553円



1. 第一三共の現況

2. 第一三共の成長戦略

2025年ビジョン/第4期中期経営計画

エドキサバン

日本事業

研究開発

3. 株主還元方針



がん**に強みを持つ** 先進的グローバル創薬企業

- **がん事業を中心とするスペシャルティ領域での事業が中核**
(病院・専門医で処方される医薬品)
- **各国市場に適合したリージョナルバリュー製品が豊富**
(各地域の事業戦略に適合した製品)
- **SOCを変革する先進的な製品・パイプラインが充実**
(スタンダードオブケア = 現在の医学では最善とされ、広く用いられている治療法)
- **効率的な経営による高い株主価値**

2025年ビジョン

がんが強みを持つ
先進的グローバル創薬企業

2016-2020
第4期中期経営計画

転換

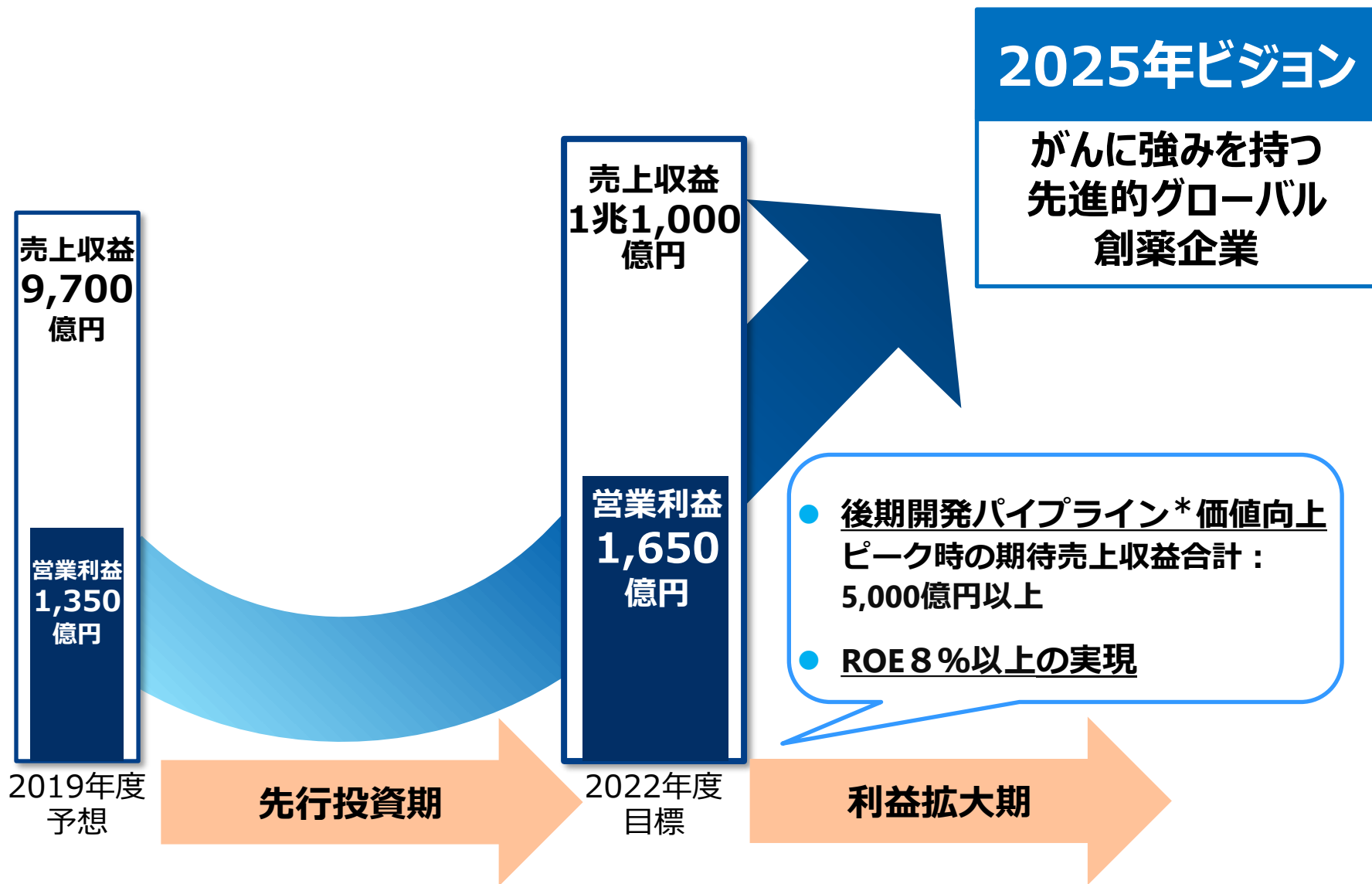
Transformation

2015年以前

- 循環器事業
- PCP領域*中心
- グローバル製品
- 自前主義
- 売上規模

* プライマリケア医（総合医）で主に処方される医薬品

第4期中期経営計画（計数目標）



1. 第一三共の現況

2. 第一三共の成長戦略

2025年ビジョン/第4期中期経営計画

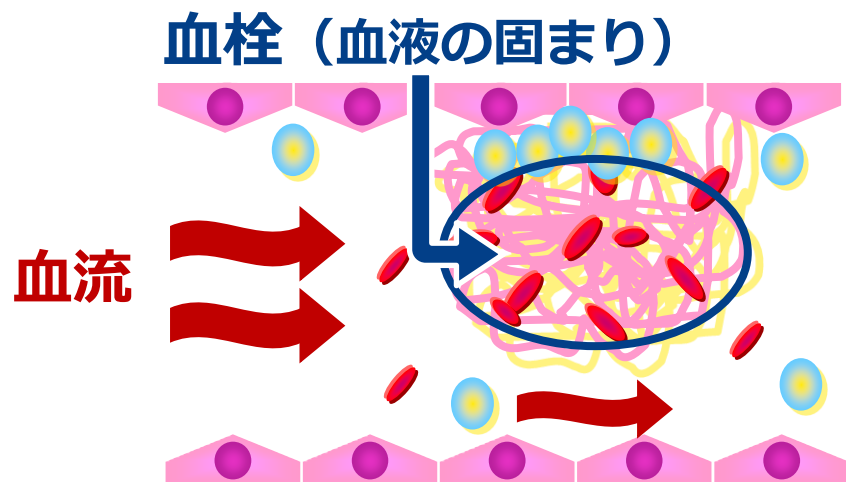
エドキサバン

日本事業

研究開発

3. 株主還元方針





1日1回投与の
利便性と
高い安全性の両立

- ◆ 心房細動による脳梗塞等の予防
- ◆ 肺塞栓症や、エコノミークラス症候群の治療・予防

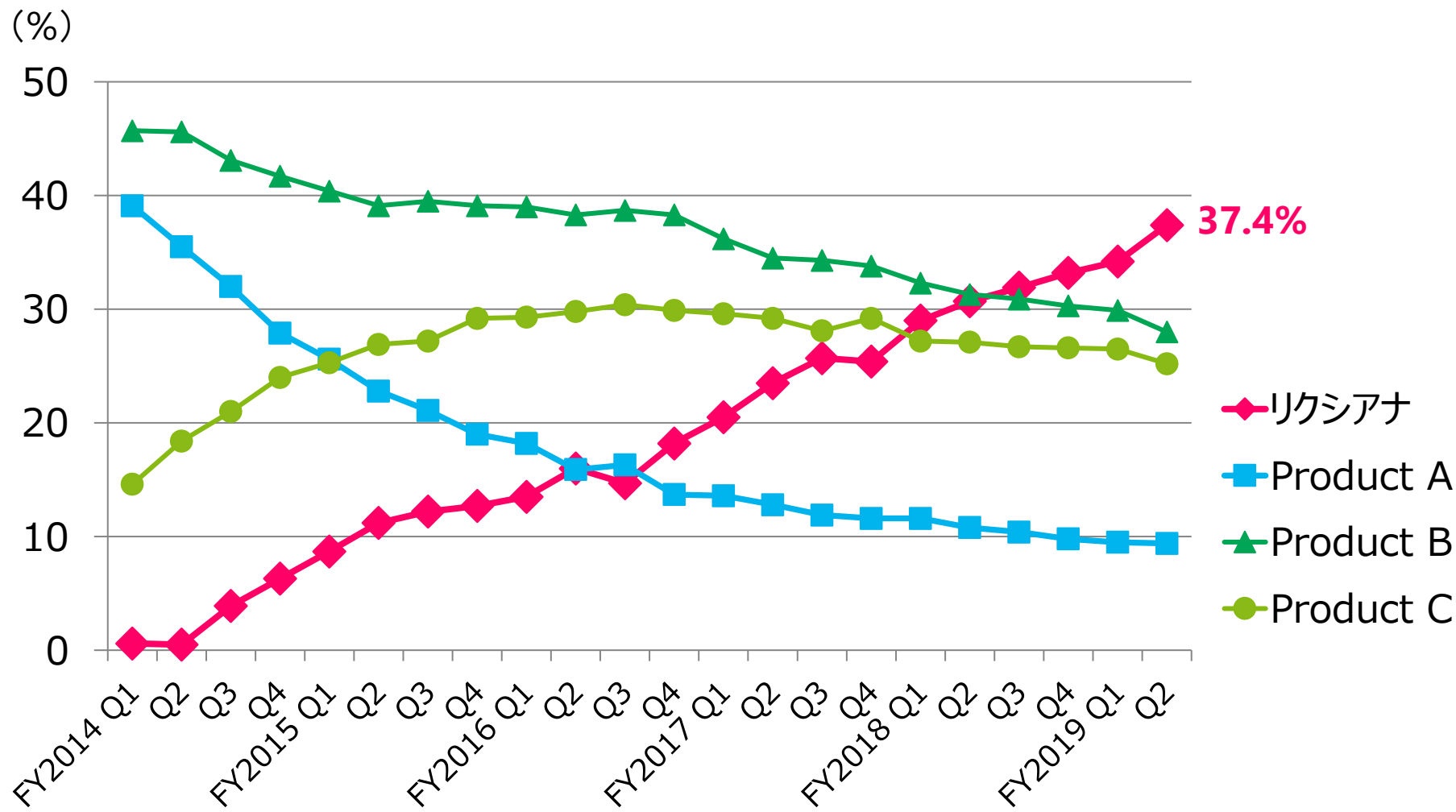
日本では、水なしでも服用できる OD錠 もラインアップ

リクシアナ：日本における成長

金額
ベース



売上シェア 1位 (2019年度第2四半期：37.4%)



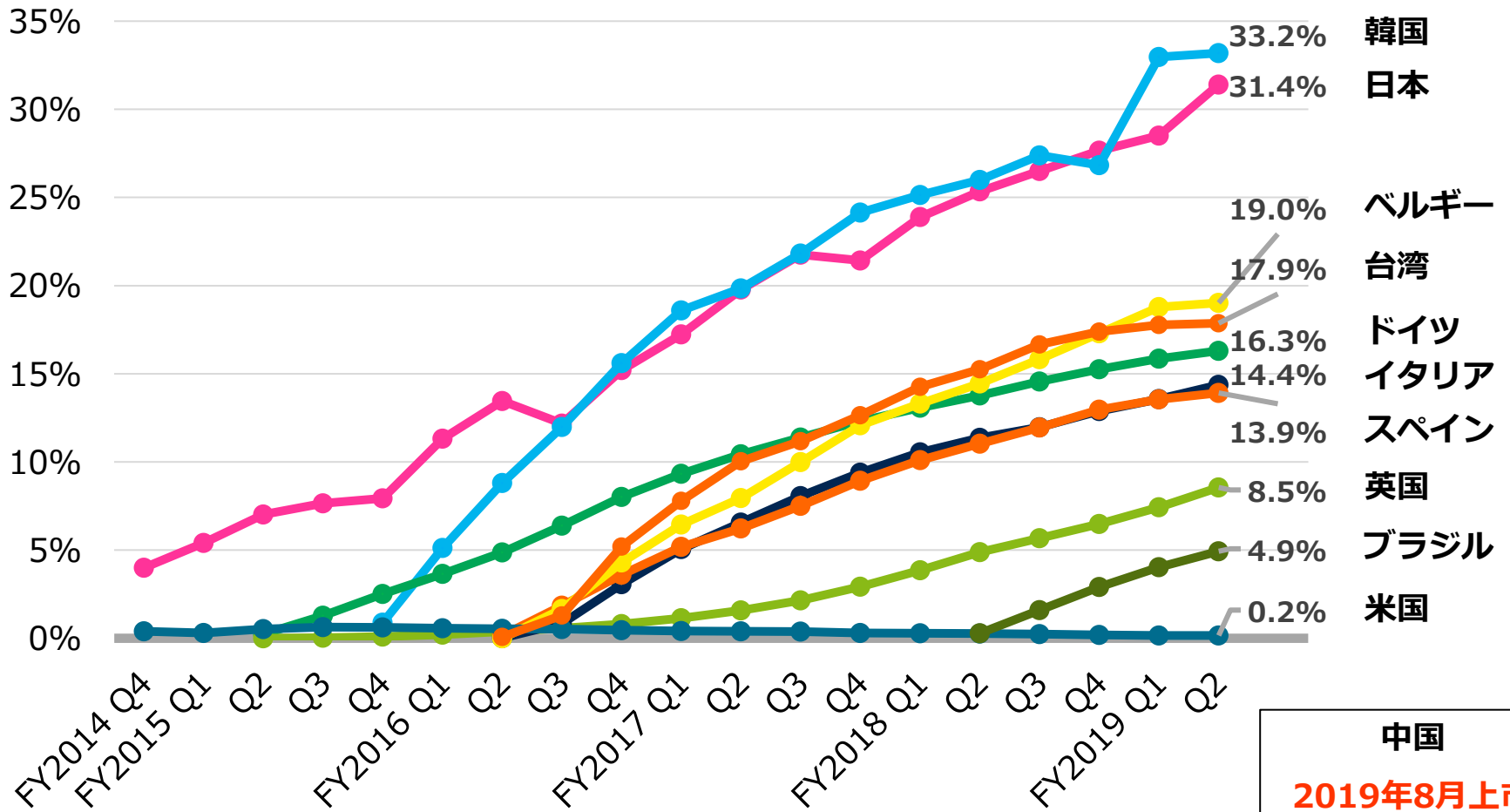
Copyright © 2020 IQVIA.
JPM 2014年度第1四半期 - 2019年度第2四半期をもとに作成
無断転載禁止

エドキサバン：各国における成長

数量
ベース

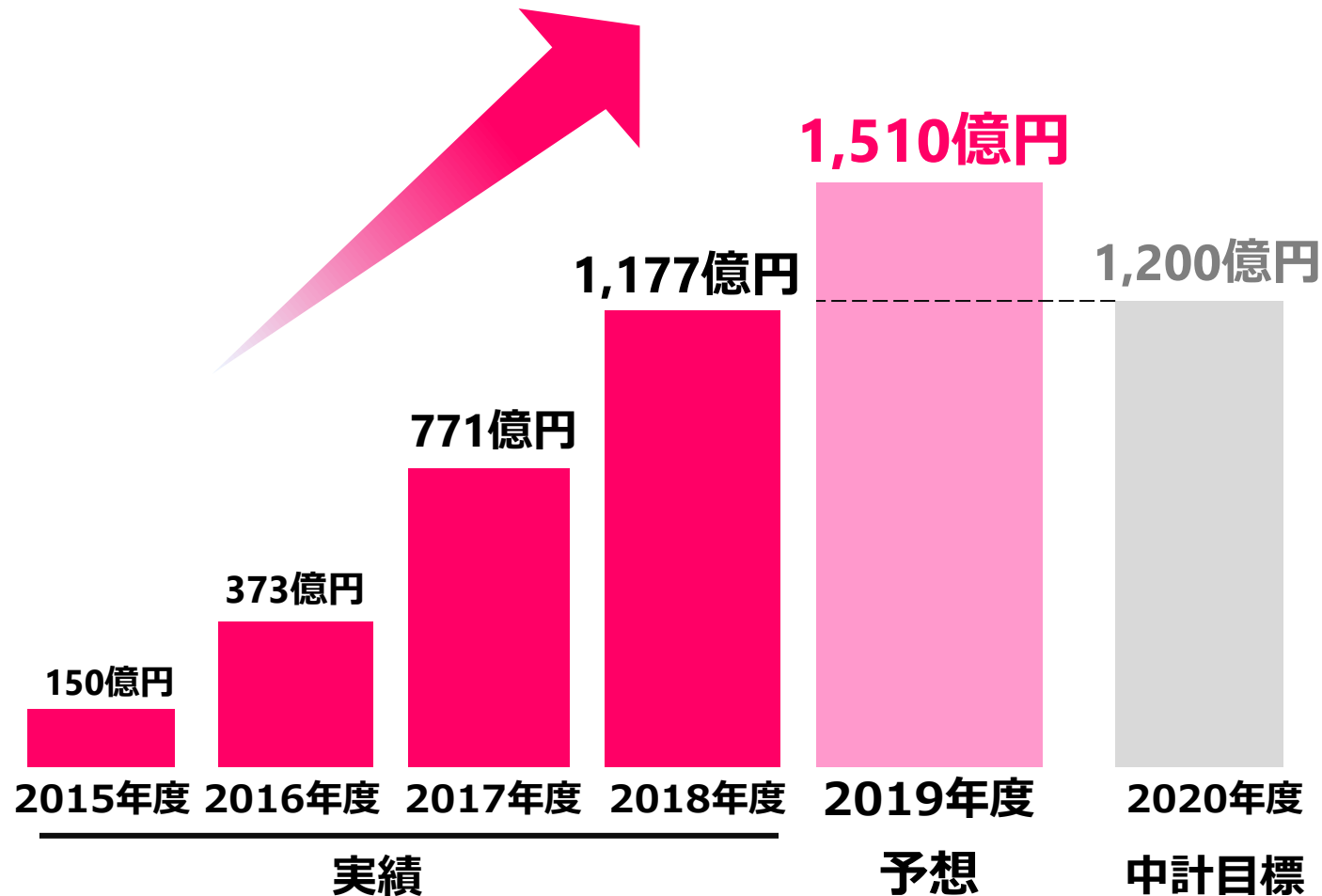


市場シェアを着実に拡大



エドキサバン：売上収益の目標と進捗

今年度、中計目標を前倒して達成し、更なる拡大を目指す



1. 第一三共の現況

2. 第一三共の成長戦略

2025年ビジョン/第4期中期経営計画

エドキサバン

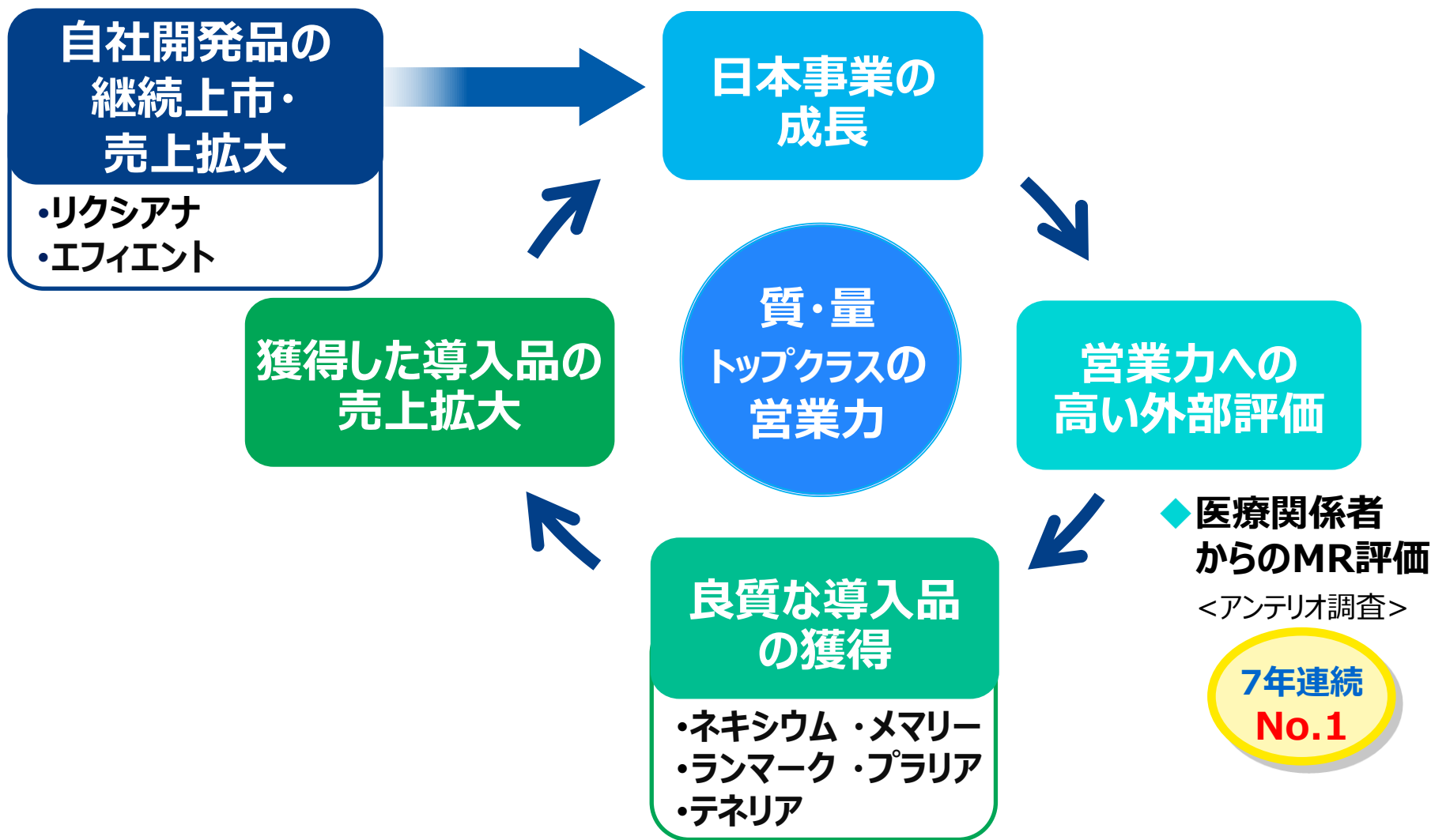
日本事業

研究開発

3. 株主還元方針



◆ 国内医療用医薬品売上収益 3年連続 No.1



疼痛治療剤タリージェ

2019年4月 上市



高血圧症治療剤ミネブロ

2019年5月 上市



抗悪性腫瘍剤/ FLT3阻害剤 ヴァンフリタ

2019年10月 上市

- ◆ 効能・効果
再発又は難治性のFLT3-ITD変異陽性の
急性骨髄性白血病



1. 第一三共の現況

2. 第一三共の成長戦略

2025年ビジョン/第4期中期経営計画

エドキサバン

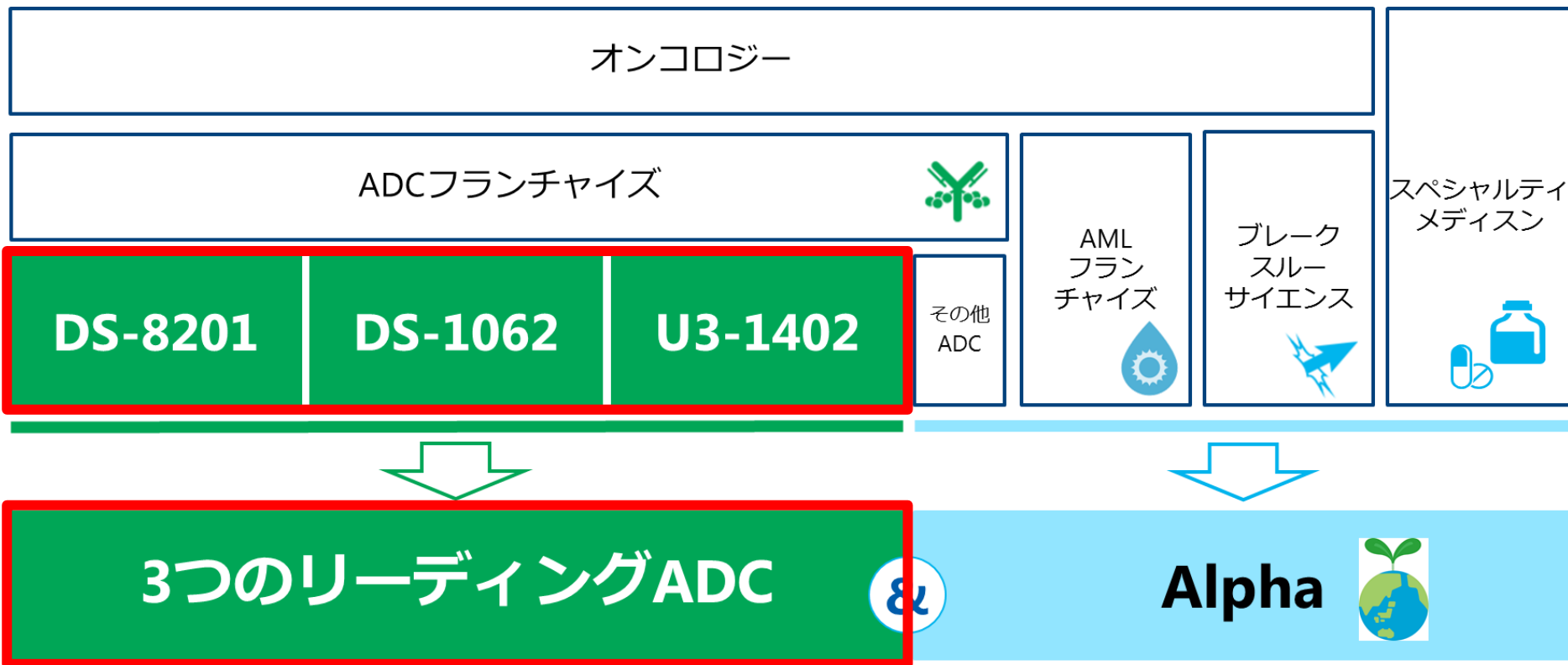
日本事業

研究開発

3. 株主還元方針



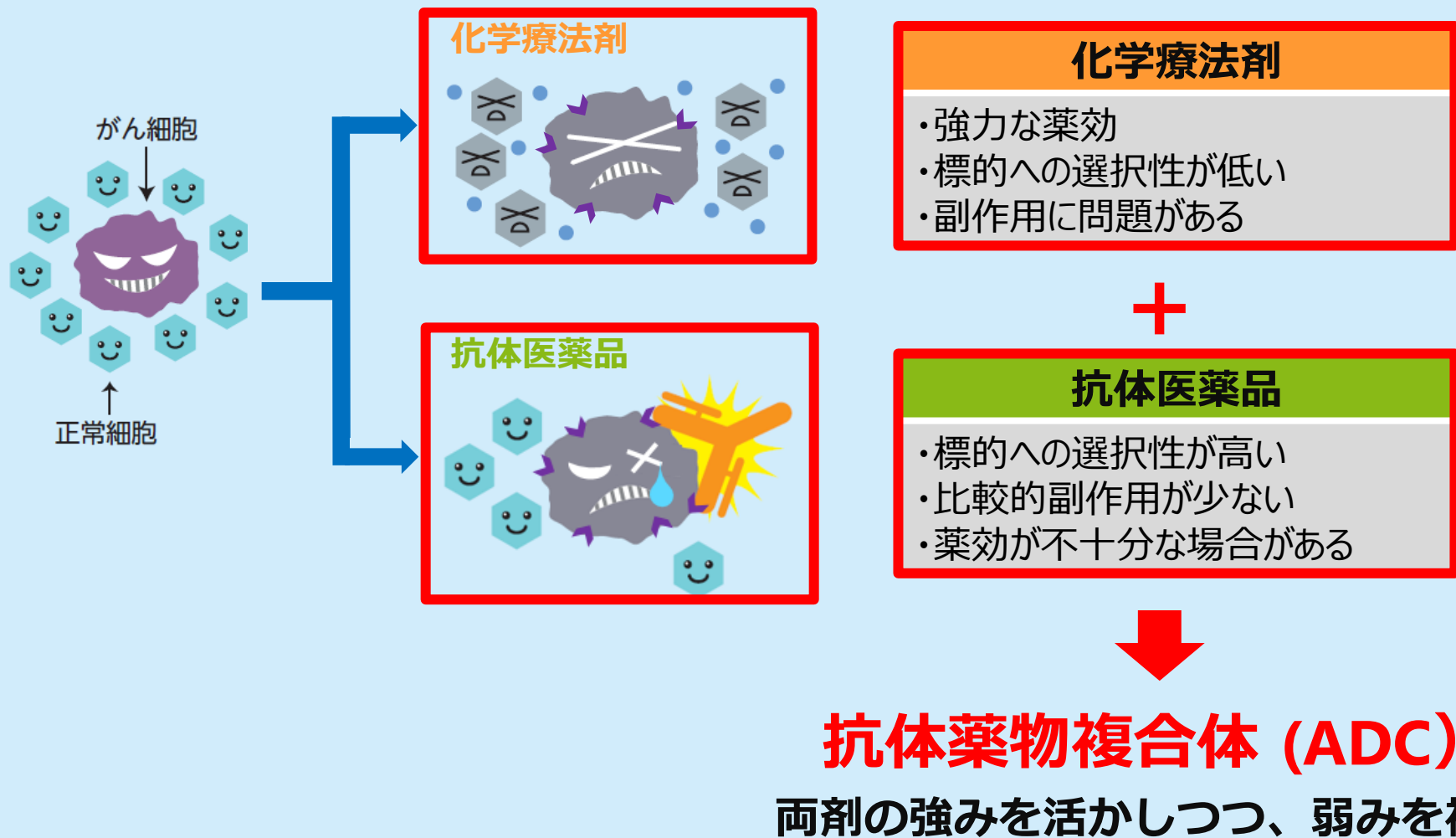
新たな研究開発戦略：3 and Alpha



- ◆ 機敏で柔軟なリソース配分
- ◆ 研究所間や組織間のコラボレーションを実施しやすい体制

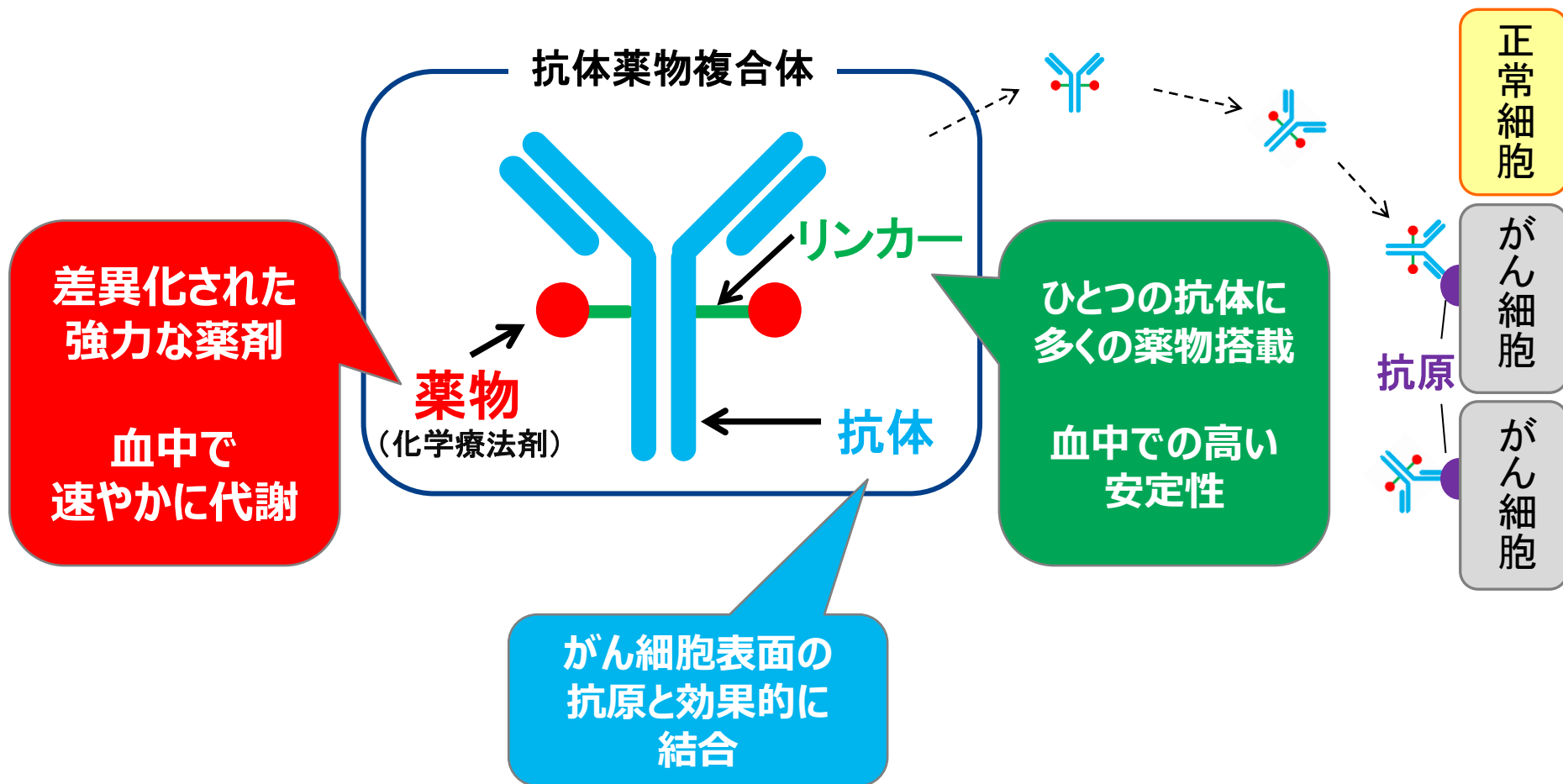
ADC: 抗体薬物複合体 (Antibody Drug Conjugate)

化学療法剤 + 抗体医薬品 = ADC*



* 抗体薬物複合体 (Antibody Drug Conjugate)

第一三共独自の技術



第一三共のADC技術は様々な抗体と組み合わせることが可能



- ◆ 機敏で柔軟なリソース配分
- ◆ 研究所間や組織間のコラボレーションを実施しやすい体制

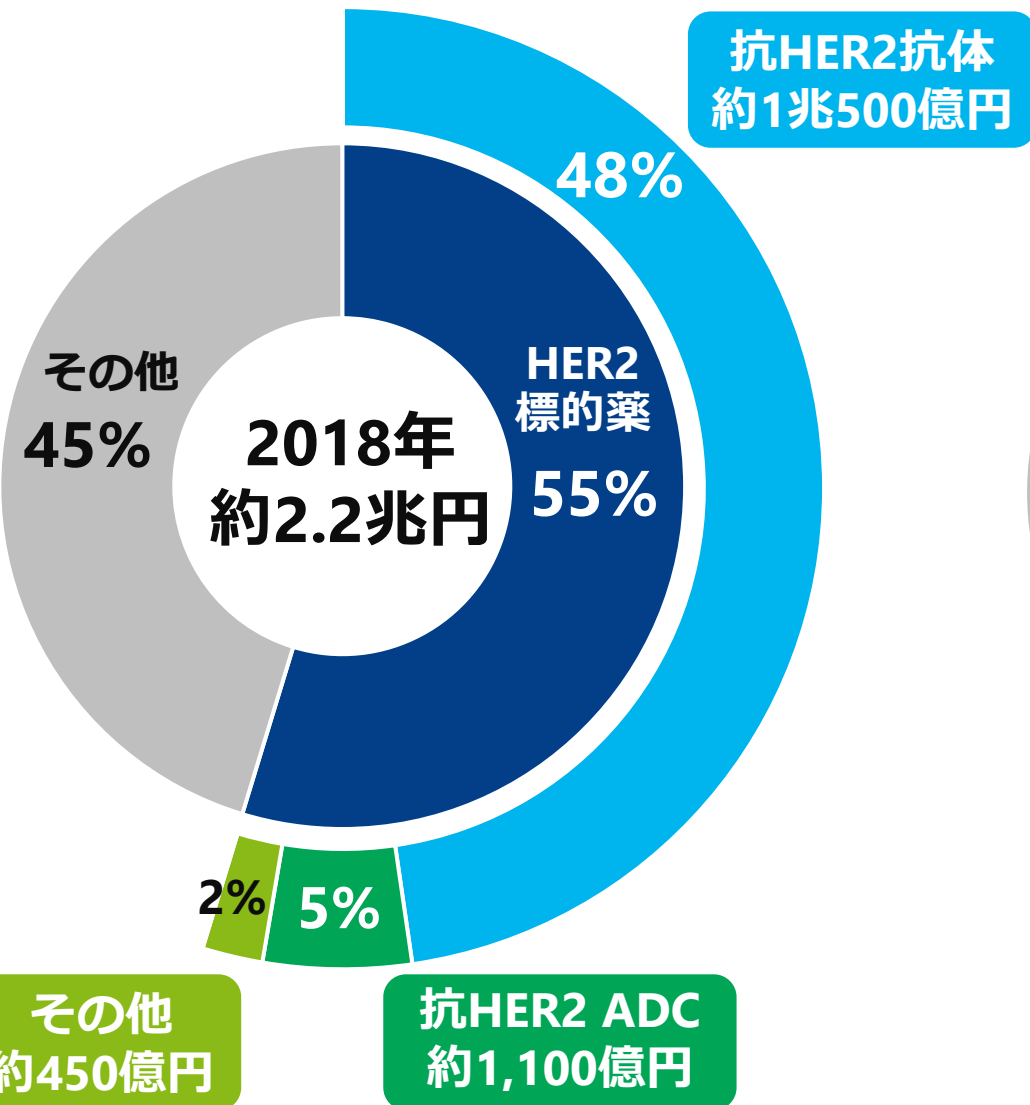
◆ HER2*を標的とするADC (抗HER2 ADC)



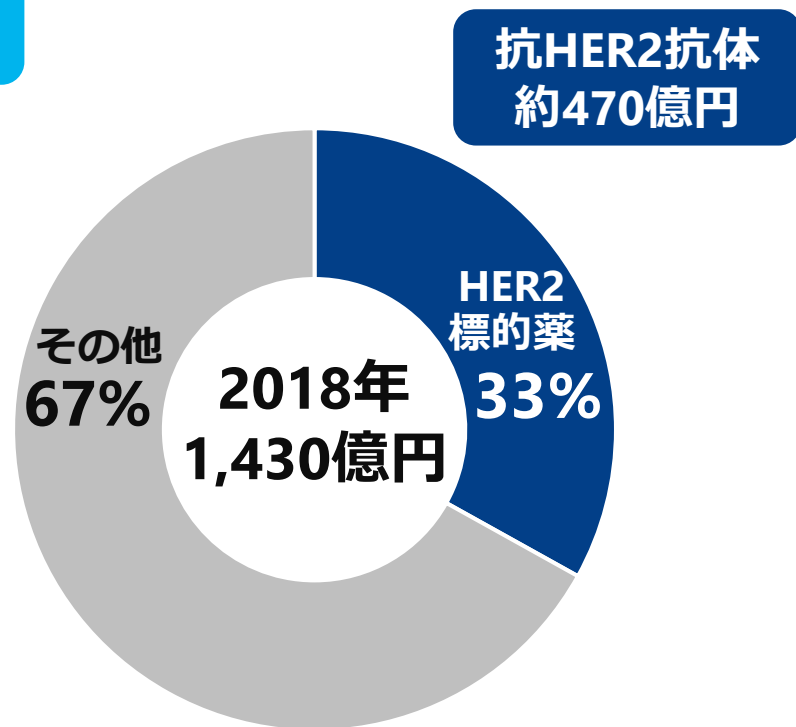
- 第一三共独自のADC技術を用いた複数のADCのうち、最も早く臨床試験を開始

* 特定のがん細胞表面に過剰発現し、がん細胞の増殖に関与

乳がん



胃がん



1ドル=110円で換算

出典：EvaluatePharma

転移性乳がんの治療

患者さんの割合

HER2陽性	約20%
HER2低発現	約40%

一次治療

抗HER2抗体 (2剤)
+ 化学療法剤

二次治療

抗HER2 ADC

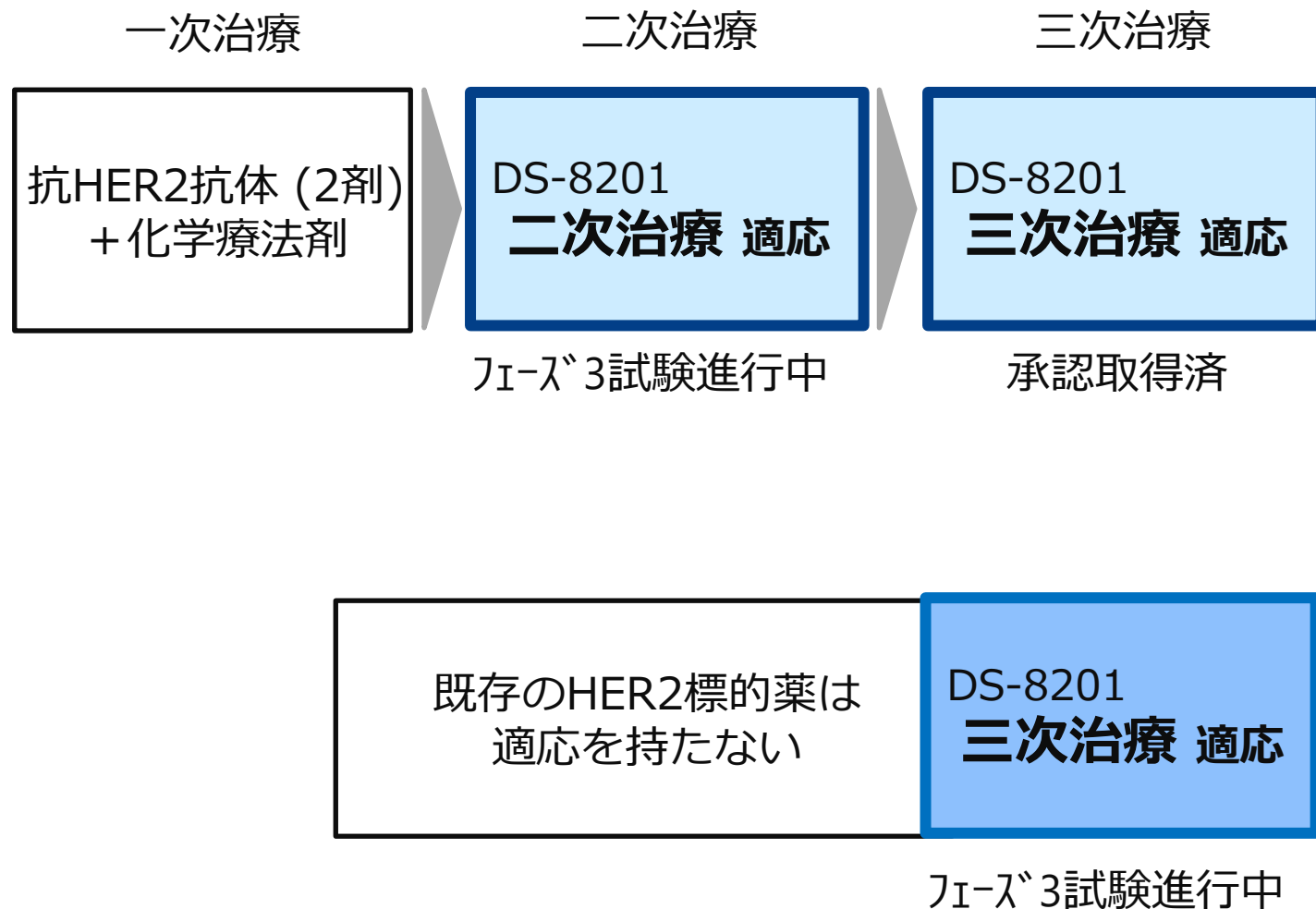
三次治療

主治医が選択

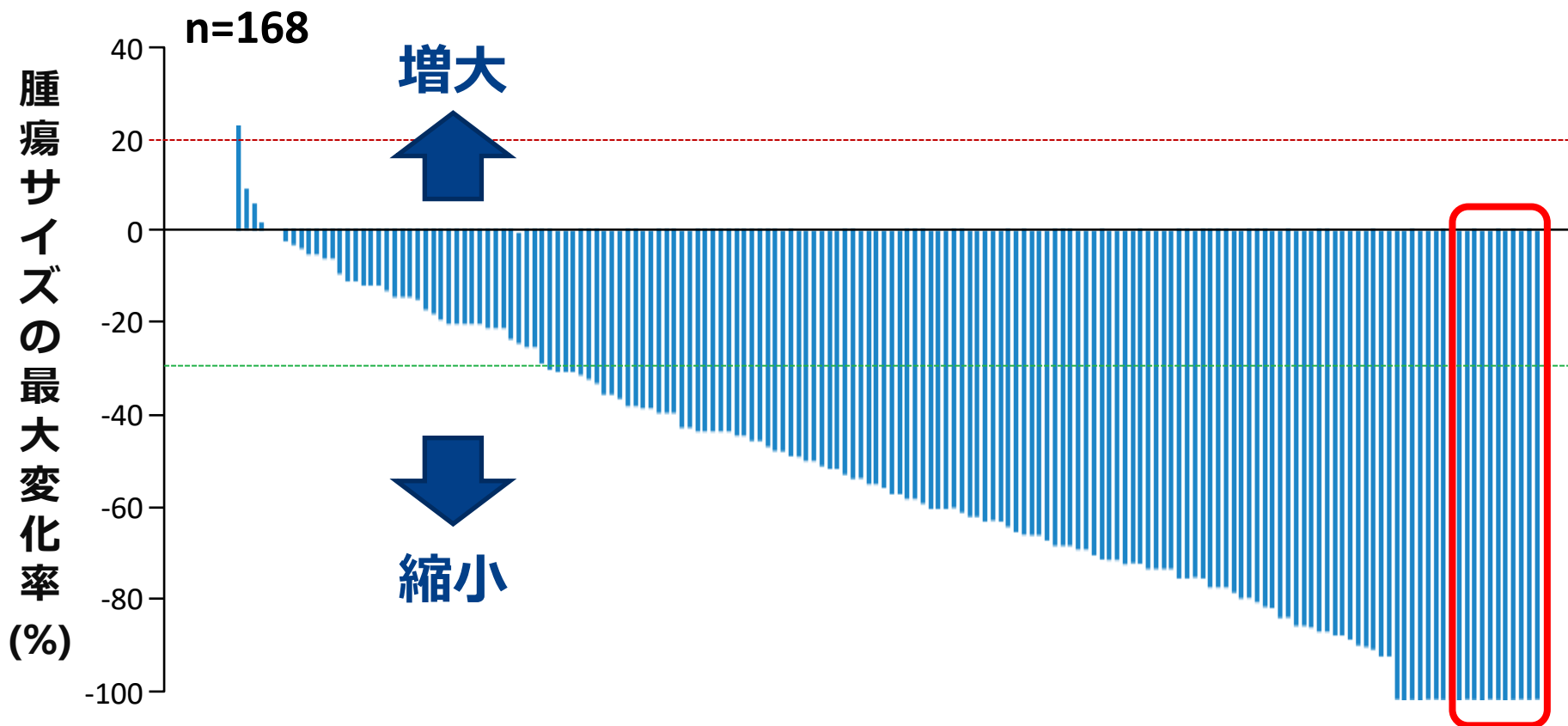
既存のHER2標的薬は
適応を持たない

患者さんの割合

HER2陽性	約20%
HER2低発現	約40%



- ◆ 確定奏効率: 60.9%* (95% CI, 53.4%–68.0%)
- ◆ 11例の完全奏効



出典：SABCS 2019 発表

* T-DXd 5.4mg/kgを投与されたすべての患者を含む (intent-to-treat analysis; N=184)

このプレゼンテーションは、著者/発表者の知的財産であり、著者の許可を得て使用

ENHERTU® : 米国での上市

HER2陽性乳がん
三次治療 適応



2015 2016 2017 2018 2019

2020年1月 上市

最初の
患者さん
への投与
2015年9月



承認申請:
2019年8月
販売承認
2019年12月20日

約4年



効能・効果*:

転移性乳がんに対する治療として2つ以上の抗HER2療法を受けた
HER2陽性の手術不能又は転移性乳がん

*本効能・効果は、奏効率および奏効期間の結果に基づき、迅速審査のもとで承認されました。本効能・効果での承認取得は条件付きであり、HER2陽性の再発・転移性乳がんを対象とした第3相臨床試験における臨床的有用性の検証が必要となります。なお、本剤の米国添付文書には「枠組み警告」として間質性肺疾患（ILD）と胎児毒性が記載されています。

DS-8201 : HER2陽性乳がん 三次治療 適応

欧州

2020年度
上半期
承認申請予定

推定審査期間：
申請後12カ月

日本

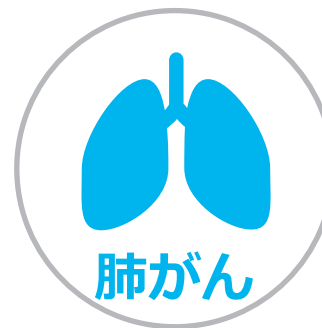
2019年
9月
承認申請受理

審査期間
最大12カ月と想定

米国

2019年
12月承認
上市済
2020年
1月上市

その他 がん種



胃がん 三次治療
日本
承認申請目標
2020年度第1四半期



先駆け審査指定
(日本)

併用



DS-8201



免疫チェックポイント阻害剤
ニボルマブ
(製品名：オプジーボ)

第一三共



アストラゼネカ社

DS-8201に関する共同開発および共同販売

受領対価：最大で総額7,590億円*

契約一時金

1,485億円

開発マイルストーン等
(最大)

4,180億円

販売マイルストーン
(最大)

1,925億円

(*1ドル=110円換算)

DS-8201の開発および商業化の加速

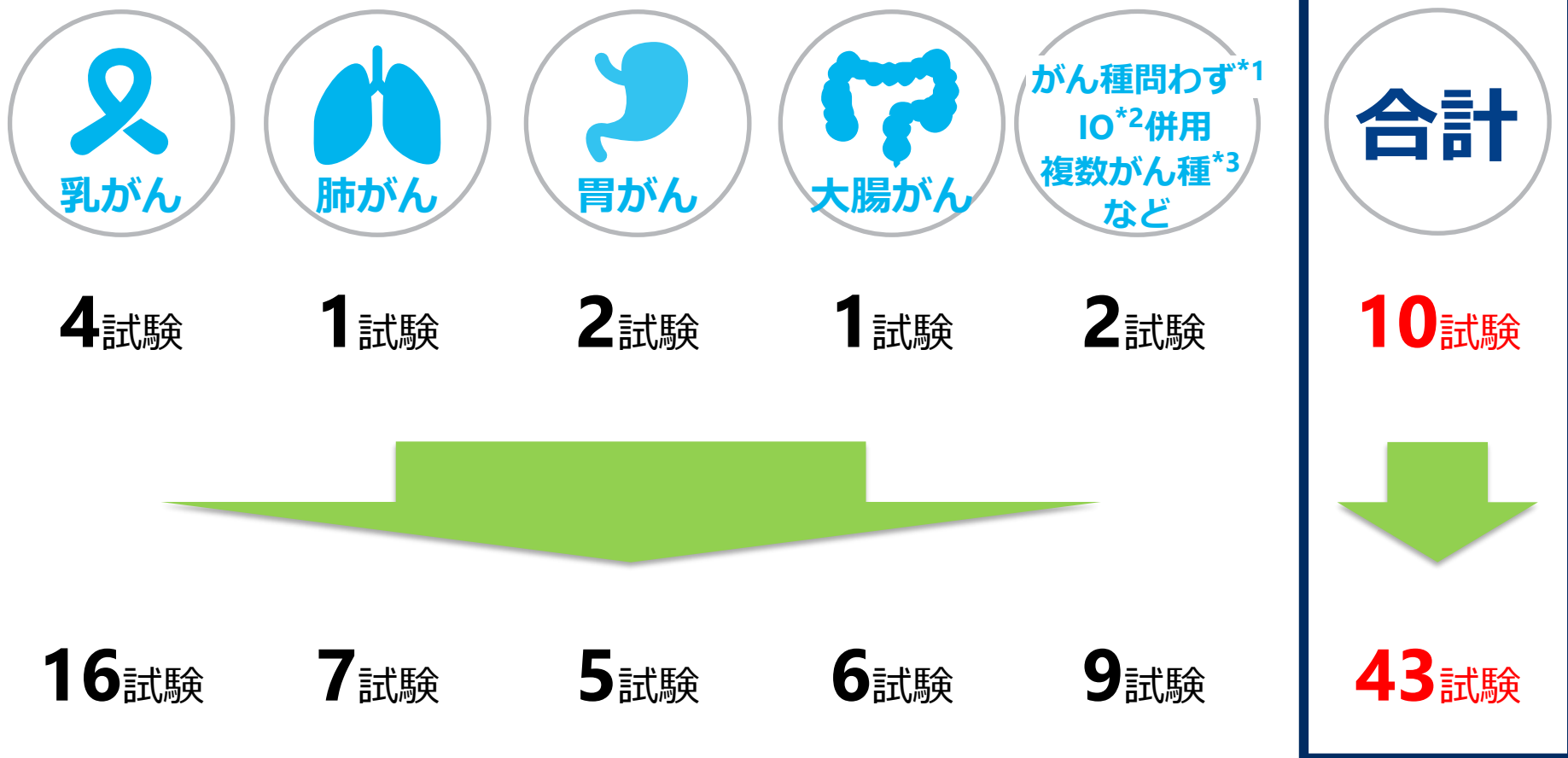
早期市場浸透

- ▶ 欧米での市場浸透の加速
- ▶ 日米欧以外での早期発売

開発加速・拡大

- ▶ 開発計画の前倒し
- ▶ がん種、適応症のさらなる拡大

DS-8201の臨床試験計画概要：方向性

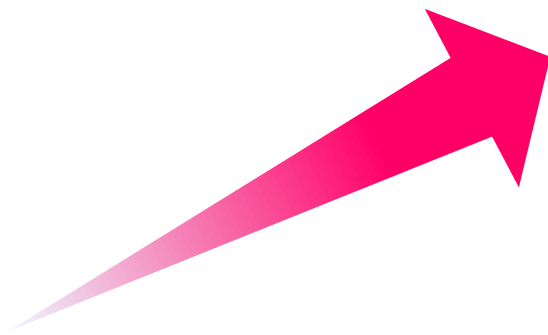


*1: Tumor-agonistic *2: 免疫チェックポイント阻害剤 *3: 1st初回投与(FIH)/臨床薬理/安全性

DS-8201のまとめ



DS-8201



**HER2陽性乳がん
三次治療 適応**

<米国> 上市済
<日本> 申請済
2020年度
承認取得見込み

**HER2陽性乳がん
二次治療 適応**

★既存の抗HER2ADC
の置換えを狙う

フェーズ3
臨床試験進行中

**HER2低発現乳がん
三次治療 適応**

★既存の抗HER2ADC
適応なし
★患者さんは
HER2陽性の2倍

フェーズ3
臨床試験進行中

その他 のがん
胃がん
肺がん
大腸がん

★既存の抗HER2ADC
適応なし

フェーズ2
臨床試験進行中

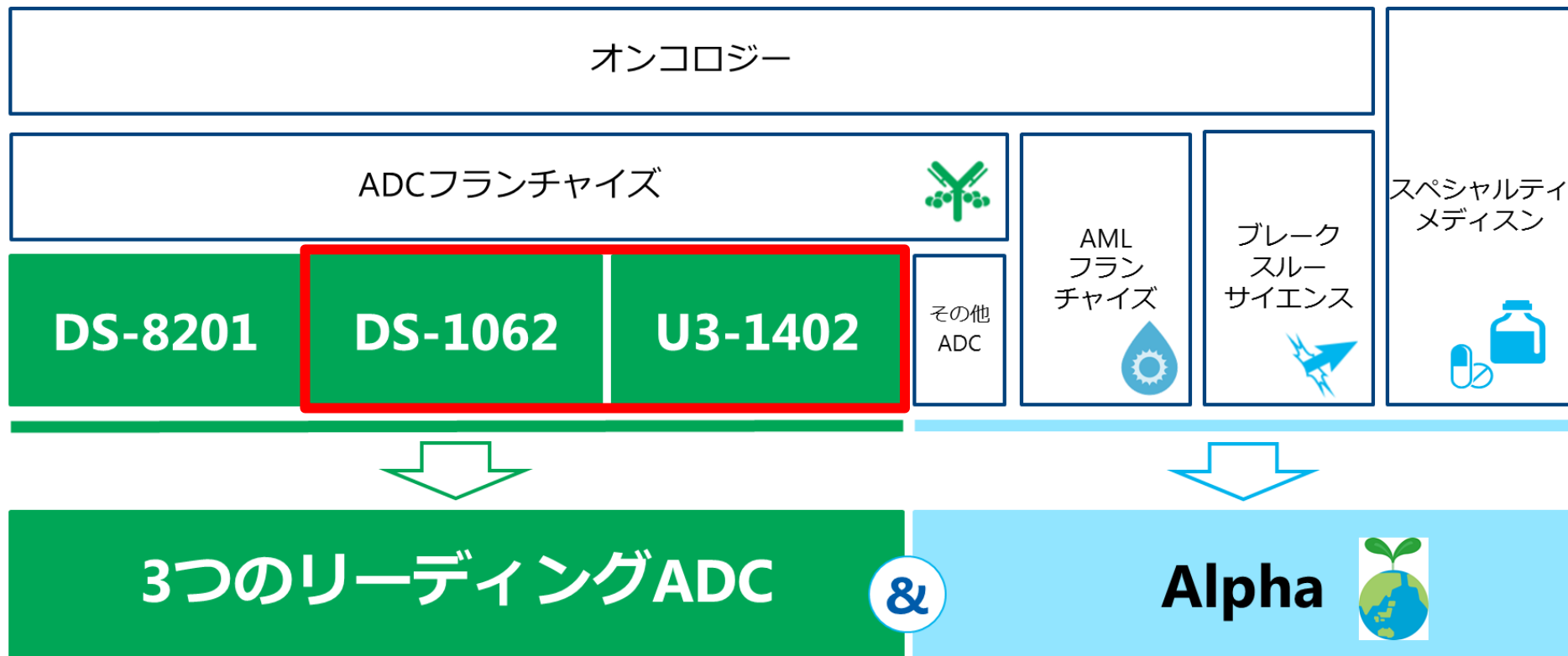
第一三共



アストラゼネカ社

DS-8201の開発・商業化を加速し、**製品価値を最大化**

DS-8201に続くADC : DS-1062とU3-1402

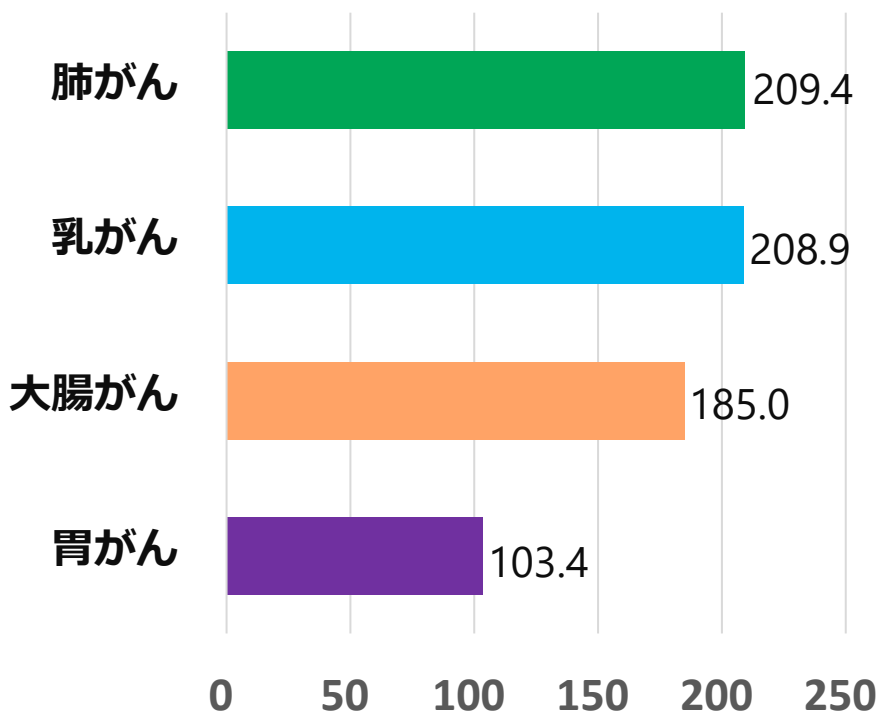


- ◆ 機敏で柔軟なリソース配分
- ◆ 研究所間や組織間のコラボレーションを実施しやすい体制

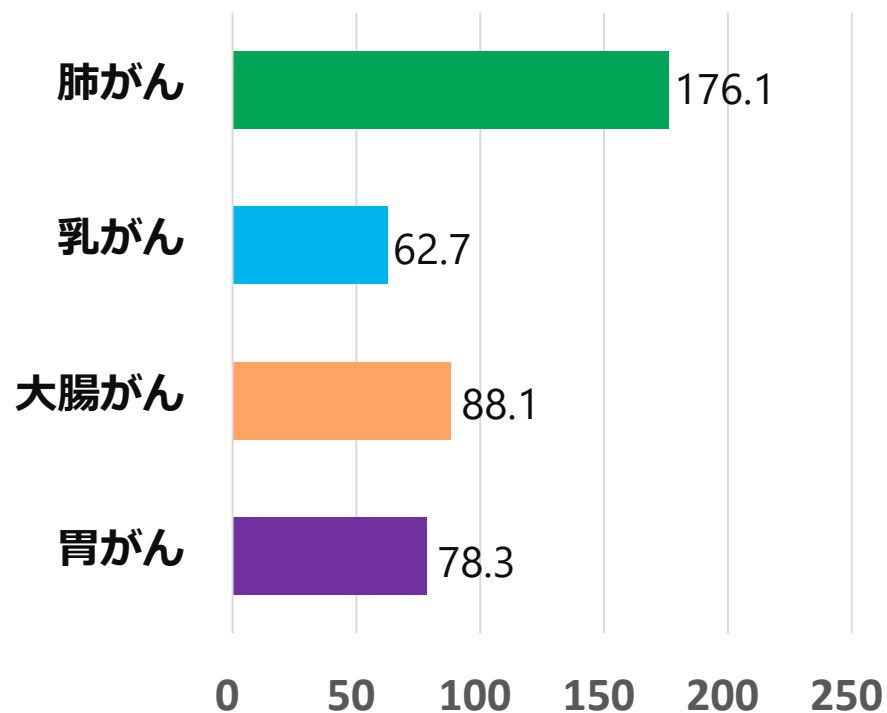
がん種別、罹患数と死亡者数（2018年推計）

◆ 肺がんが、世界で罹患数、死亡者数ともに最も多い

罹患数 (万人)



死亡者数 (万人)



◆ TROP2を標的とするADC (抗TROP2 ADC)

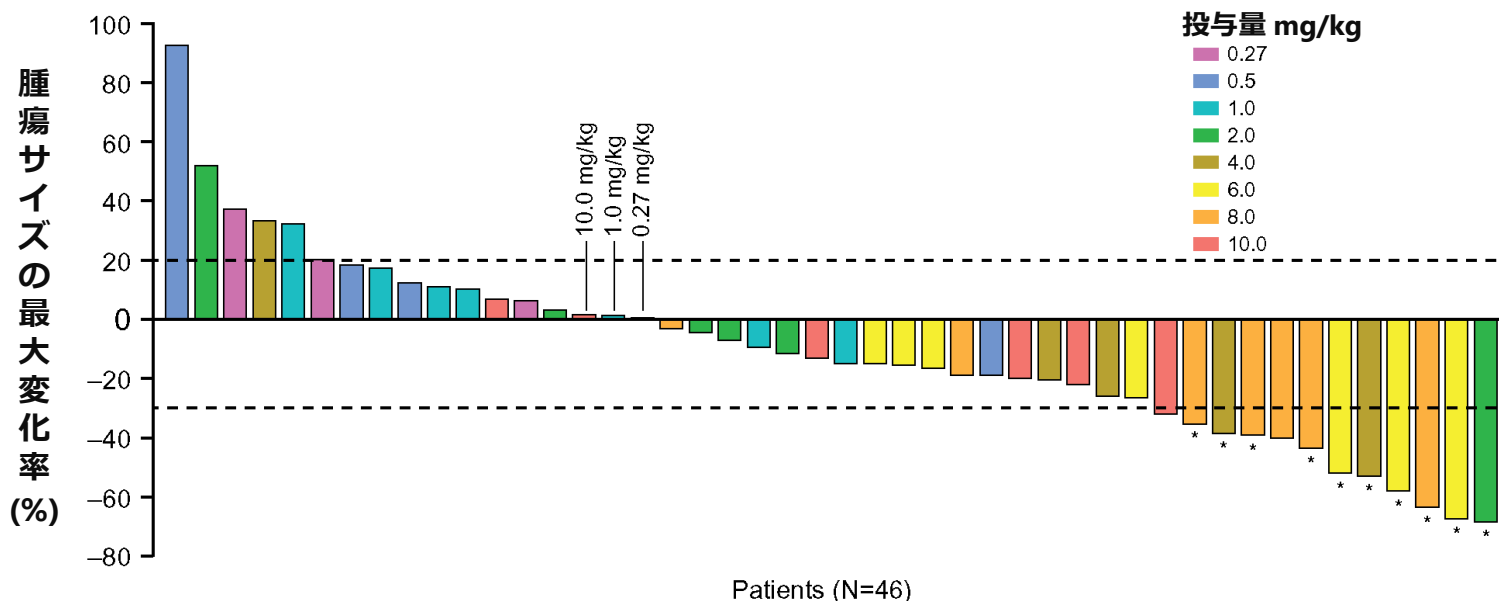


DS-1062

開発の状況

標準治療にて再発または標準治療に不応の、
切除不能な進行性肺がん

✓ フェーズ1試験で良好な初期結果 (日本、米国)



◆ HER3を標的とするADC（抗HER3 ADC）

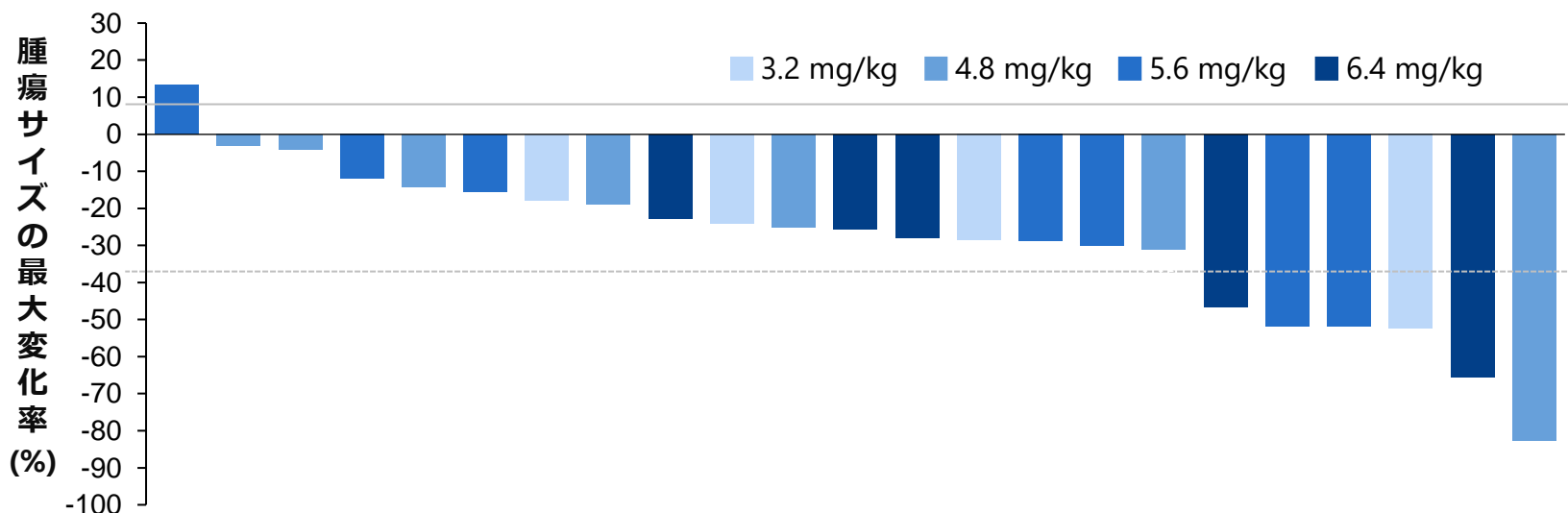


U3-1402

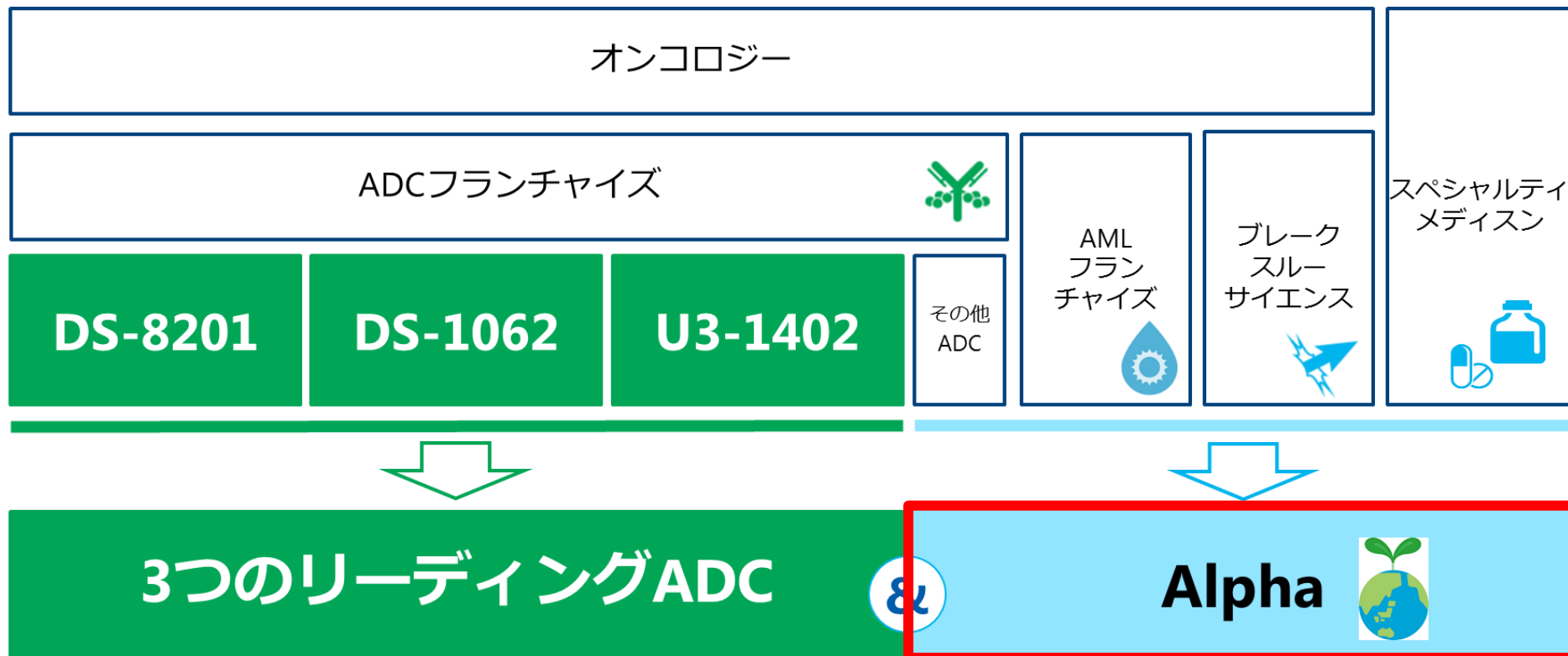
開発の状況

EGFRチロシンキナーゼ阻害剤の投与中に、
病勢進行したEGFR変異のある**肺がん**

- ✓ フェーズ1試験で良好な初期結果（日本、米国）



3 and Alpha : Alpha 創薬

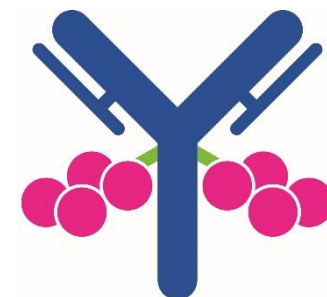


- ◆ 機敏で柔軟なリソース配分
- ◆ 研究所間や組織間のコラボレーションを実施しやすい体制

3 and Alpha : Alpha 創薬への取り組み 1

同じ技術を活用したADCプロジェクトは、合計7つに拡大

プロジェクト	先行する適応症
DS-7300* 抗B7-H3 ADC	頭頸部がん、食道がん、 肺がん、膀胱がん など
DS-6157 抗GPR20 ADC	消化管間質腫瘍 (GIST)
DS-6000 (非開示)	腎臓がん、卵巣がん
DS-3939 抗TA-MUC1 ADC	固形がん



* 臨床開発段階にあるプロジェクト 2020年1月現在

当社のADC技術は「3 and Alpha」を将来、
「4 and Alpha」、「5 and Alpha」へと発展させるポテンシャルを秘める

3 and Alpha : Alpha 創薬への取り組み 2

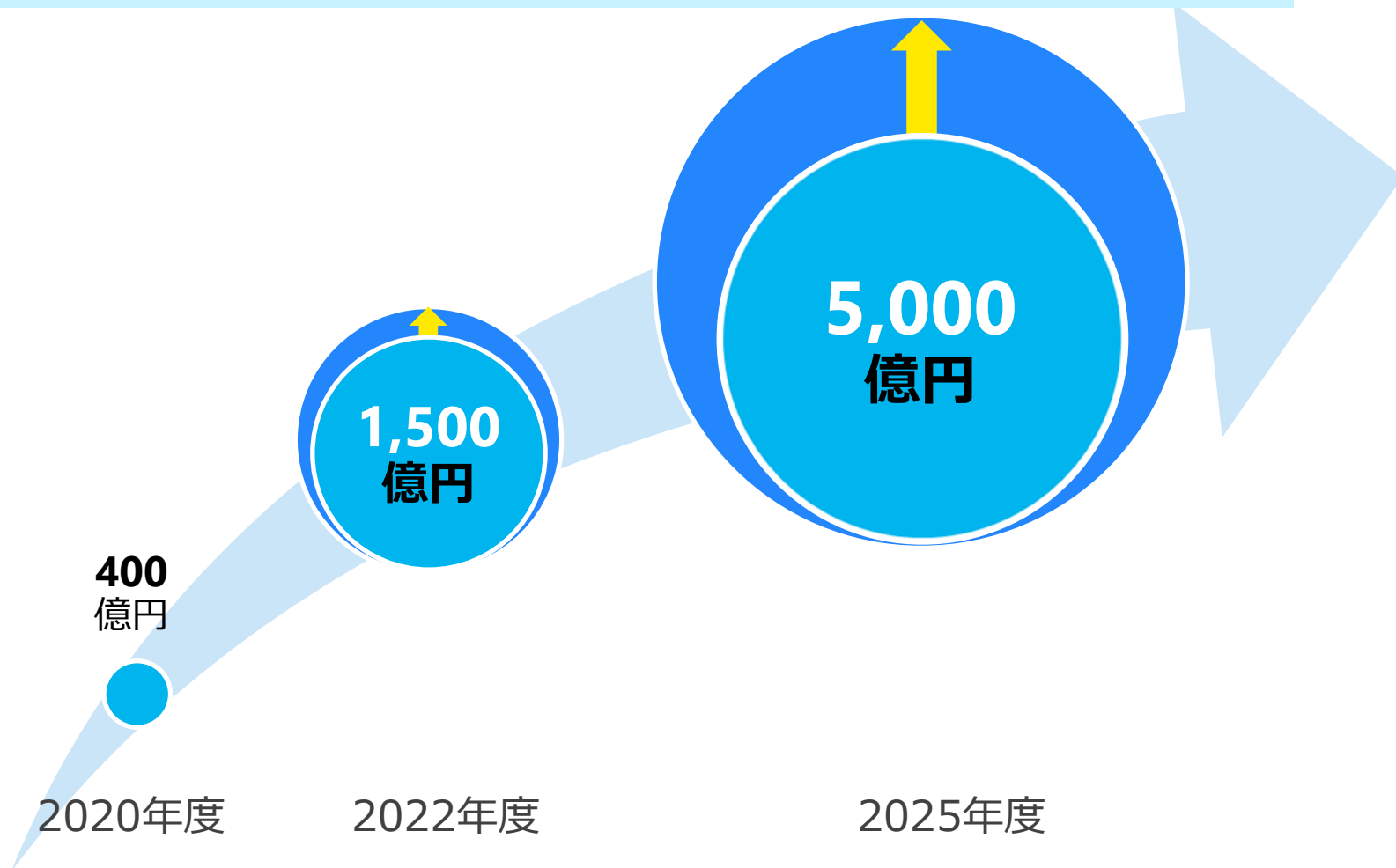
	一般名/開発コード (作用機序)	目標適応	
臨床段階	細胞治療	Axi-Cel[®]*1 (抗CD19 CAR-T細胞)	B細胞 リンパ腫
	がん治療用 ウイルス	DS-1647*2 (G47Δ) (がん治療用HSV-1)	悪性神経膠腫
	核酸医薬	DS-5141*3 (ENAオリゴ核酸)	デュシエン型 筋ジストロフィー症
研究	次世代ADC、バイスペシフィック抗体、遺伝子治療		

*1: Gilead Sciences K.K.の子会社であるKite Pharma, Inc.から日本での権利を取得

*2: 東京大学医科学研究所 藤堂具紀教授と共同開発

*3: 株式会社Orphan Disease Treatment Instituteと共同開発

- ◆ 将来のがん事業の売上収益伸長
2025年度：5,000億円を上回る成長を目指す



1. 第一三共の現況

2. 第一三共の成長戦略

3. 株主還元方針



株主還元方針：2016～2022年度



	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 予定
配当	70円	70円	70円	70円
自己株式取得	500億円	500億円	-	機動的
総還元性向*	180.7%	159.1%	48.5%	-
	114.8%			

*総還元性向 = (配当金の総額 + 自己株式取得総額) / 当期利益 (親会社帰属)

持続可能な社会の実現に向けた取り組み

企業理念

革新的医薬品を継続的に創出し、
多様な医療ニーズに応える医薬品を提供することで、
世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する



健康



持続可能な開発目標 (SDGs)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



イノベーション



気候変動



パートナーシップ

持続可能な社会の実現へ貢献

株主の皆様とのコミュニケーション強化
株主説明会の開催（本日）

**株主の皆様のご意見を
経営に反映**

高い株主価値の実現

株主総会の開催（6月）

議決権行使により、皆様のお声を寄せてください

本資料に関するお問い合わせ先

第一三共株式会社
コーポレートコミュニケーション部

TEL: 03-6225-1126 (報道関係者の皆様)

03-6225-1125 (株式市場関係者の皆様)

Email: DaiichiSankyoIR@daiichisankyo.co.jp